

獅子を愛し、まちを元気に

ナバリスト 20

中上 弘次 さん | なばり獅子フェス実行委員長

なかうえ・こうじ ● 地元短野地区の獅子舞復活に携わり、現在は、短野獅子神楽保存会の会長を務める。実に7年ぶりの開催となる「なばり獅子フェス」復活の立役者のひとりでもある。

集え！獅子魂
響け！鼓動



みんなの力で最高の夜に

物心がつく前から、祭りになると地区の獅子舞のあとを追いかけていたものです。大人になったら自分も獅子舞をやるのが当たり前だと思っていたんですが、後継者がいなくなり、途切れてしまっていました。

ある日、地区の集まりで、かつて獅子舞をしていた人が「祭りのとき、太鼓の音が聞こえてこやへんのは寂しいな」とぼつり。「どうや、お前ら、やってみやへんか」と声がかかり、先輩たちの記憶を頼りに仲間と復活させました。平成13年のことです。現在のメンバーは10代から70代までの14人。10月の秋祭りに向けて、8月から練習を始めます。大変というより、みんなで楽しめる場。私たちの姿を見て、ここ2年で3人も仲間が加わってくれたんですよ。

コロナ禍を経て、ようやく開催できた獅子フェス。熱い獅子魂をもつ仲間をはじめ、ばりフェス実行委員や、書道や竹あかりの作品などで会場を盛り上げてくれた皆さん、そして協賛者のおかげで最高の夜に！市内の獅子舞は、もとは同じ系統でも、衣装や道具の飾り、舞の仕草や動きに、それぞれ特徴があつて本当に面白い。自分たちと同じように、真剣に継承している人たちの姿に刺激を受け、胸が熱くなりました。

うれしかったのは、会場にたくさんの子どもの姿があつたこと。昔の私が獅子舞にあこがれたように、子どもの頃から獅子舞に親しめる場をみんなで大切にしていきたい。そして、次の世代に受け継いでいってもらいたいと願っています。



獅子フェスでは短野伝統の2頭舞を披露



たくさんの仲間と共に獅子フェスを企画



書道や竹あかりの作品が会場を盛り上げた

表紙 なばり獅子フェス 2025

「集え！獅子魂」の掛け声で幕を開けた「なばり獅子フェス」。市内で活動する16の獅子神楽の団体が、9月27日、市役所市民広場に大集結。前半、後半に分かれて、8団体ずつ、かがり火の下で一斉に勇壮な舞を披露しました。

今回は、「NABARI BALIBALI fes (ばりフェス)」とのコラボ開催。獅子舞に関する講演会のほか、獅子舞の工作やクッキー販売などもあり、獅子舞の魅力あふれる1日となりました。



令和7年11月10日発行

広報なばり

● 人口 73,404 人 (前月比 - 66 人) ● 世帯数 35,026 世帯 (前月比 - 6 世帯) ※ 10/1 現在

発行／名張市 なばりの未来創造部 広報シティプロモーション推進室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1

☎ 0595-63-7402 FAX 0595-63-2560 ✉ pr@city.nabari.lg.jp